

やけどについて

やけどで救急搬送されるケースとして、「小さい子どもがポットをひっくり返してお湯をかぶった…」などがあります。また、冬では暖房器具（ストーブ等）が原因でやけどをするケースも考えられます。



どれくらいの温度でやけどは起きるの？

44℃の温度では……6～7時間

60℃の温度では……10秒

70℃以上では……1秒

※小さい子どもだと皮膚が薄いため、さらに時間は短縮されます

やけどに対する応急処置

手や足、腕といった部分的なやけどであれば、洗面器やバケツに水道水を流したまま患部をつけて冷却しましょう。

水道の蛇口から直接水にあてるのは、表皮の剥離を悪化させてしまうので好ましくありません。

胸やお腹といった体幹部を含めた広い範囲をやけどした場合、冷却すると低体温になる恐れがあるため冷行わず、安静にしてすぐに救急車を呼びましょう。

水疱(みずぶくれ)ができて破ってはいけません。清潔なガーゼ等で水疱が破れないよう保護しましょう。

☆予防のポイント

- ・料理などで火を使う場合は注意しましょう。
- ・ポットなど高温の液体が入っているものを、子どもの手の届くところに置かないようにしましょう。
- ・暖房器具の配置を考え、必要であれば柵を設置して子どもが近づけないようにしましょう。
- ・夏に花火をする時は、子どもから目を離さずに注意しましょう。

